

競技上の注意事項

- 本記録会は、2026年度(財)日本陸上競技連盟競技規則および、本大会の開催要項によって運営する。
- 本記録会は、(財)日本陸上競技連盟広告規程を適用する。
- 貴重品は自分の責任において保管すること。更衣室のロッカーを使っても良い。
- 招集所(競技者係)は、第2ゲートに設ける。また、招集の時刻は以下のとおりとするので厳守のこと。

トラック競技	競技開始の30分前に開始し20分前に完了すること。 組ごとに招集時刻が異なる場合もあるので、日程表に記載の時刻を厳守のこと。
フィールド競技	競技開始の50分前に開始し40分前に完了すること。 棒高跳は競技開始の70分前に開始し60分前に完了すること。
- トラック競技で800m・1500mは右腰に腰ビブスを着けること。3000m以上の種目は両腰に腰ビブスを着けること。招集時に競技者係より受取ること。
- 跳躍競技のアスリートビブスは胸・背のどちらかに着けるだけでもよい。
ただし、走幅跳と三段跳はどちらかに着ける場合は、(ナンバーチェックのため)胸に着けること。
- スパイクシューズのスパイクは全天候舗装用とし、その長さは9mm以下とする。ただし、走高跳及びやり投げは12mm以下とする。シューズ底の厚さはWA改訂規則を適用する。
雨天練習場以外の建物内を通行する際は、必ずスパイクシューズを脱ぐこと。
- 三段跳の踏切板の位置は、砂場から9m(女子)・11m(男子)とするが、当日の状況を確認して審判長が決定する。
- トラック競技は、以下の手順で荷物管理および競技後の選手の通路を確保する。
 - ①競技者は、各自ビニール袋(700程度:ナンバーと氏名を記入)を準備すること。(TICで販売も行う)
 - ②スタート地点で衣類を入れ、指示された位置に置く。
 - ③競技(レース)
 - ④スタート地点で荷物を受け取り、退場する。※100m・100mH・110mHの選手は、スパイクを脱いで1階通路を通ってスタート位置に移動する。
- 競技用器具は主催者が用意したものを使用することとする。ただし、個人所有の投てき用器具を使用したい場合は、競技開始1時間前までに係員の検査を受けること。検査は用器具庫1(第4ゲート付近)で行う。その場合、合格したものは主催者が預かり、出場者全員が使用できるものとする。
- バーの上げ方は、以下のとおりとする。

走高跳	男子	1m40から2m00までは、5cmきざみ。その後は、3cmきざみ。
	女子	1m20から1m55までは、5cmきざみ。その後は、3cmきざみ。
棒高跳	男子	2m40から4m00までは、20cmきざみ。その後は、10cmきざみ。
	女子	2m20から3m00までは、20cmきざみ。その後は、10cmきざみ。
- 長さを競うフィールド競技は3回の試技とする。
- 大会開始前の主競技場での練習は、行わない。補助陸上競技場は、8時~18時までとする。
1・2レーンは中・長距離練習、3~5レーンはスタート練習、6~8レーンはハードル練習とする。
練習時のハードル設置は、全てスタートから3台目までとする。ちよるる広場での投てき練習はできません。
- 補助陸上競技場でのやり投の練習は不可とするが助走練習は可とする。
- 競技中に発生した傷病については、本部で応急処置は行いが、その後については本人の責任において処置すること。
- 競技者が走行不能(即ち歩いたり、立ち止まったり、倒れた状態)となった場合は、本人がなお競技続行の意思をもっていても、審判長(または権限を委譲された審判員)から中止を命ぜられた場合は、直ちに競技を中止しなければならない。
- メインスタンド1階への競技者の入退場は、第1・4ゲート部の出入口を利用すること。(正面玄関からは通行禁止)
- 雨天走路の利用は、一方通行(東から西)とする。尚、出入りは、北側出入口のみとする。
- 競技場外のジョギングコースでのスパイクの使用、ハードルの設置及び逆走を禁止する。
※ ハードルの設置・撤去等、用具の出し入れは、みんなで協力しましょう。
※ 競技場内にゴミを残さないよう、きれいな競技場にしてお帰ください。
※ 競技場敷地内は全面“禁煙”です。テニスコート側駐車場の喫煙コーナーをご利用ください。